

英語教育研究コース（千駄ヶ谷キャンパス） 説明会のご案内

当コースの説明会を開いてほしいというご要望をいただいております。そこで、現職の先生方やお仕事をお持ちの方にご参加いただけるような日時をと考えまして、下のように説明会を開催したいと存じます。ご都合のつく方、興味がおありの方は、是非ともご参加いただければと存じます。

*

●日 時：2017年8月5日（土）15：00—16：00

●場 所：千駄ヶ谷キャンパス

アリス・メイベル・ベーコン記念館 SA202 教室

●内 容：カリキュラム説明

模擬授業（教員および在校生）

卒業生からのメッセージ

質疑応答（教員および在校生）

* 個別相談ご希望の方は、16時以降、あるいは予約の上、後日時間を取らせていただきます。

* 事前申込は不要です。

* 問合せ先：千駄ヶ谷キャンパス事務室（sendagayagr@tsuda.ac.jp）

* なお、当日は同じ場所で14：45まで、津田塾大学津田梅子記念交流館主催の「英語教員のためのワークショップ」が開かれております。こちらにもご参加ご希望の方は、<http://koryukan.tsuda.ac.jp> をご覧の上、当ページよりお申し込みください。

文学研究科修士課程 英語教育研究コース案内（千駄ヶ谷キャンパス）

コース紹介

教育研究者としての視点を持つ「学び続ける先生」になるために。

本コースは、英語の授業を担当している先生方や将来英語教師になることをキャリアとして考えている方などが、英語指導の実践力と研究力を身につけることをねらいとした、新しい修士課程です。仕事を続けながら、夜間、週末、夏期・冬期休暇を利用して必要単位を修得できます。通常の毎週の授業で基本となる必須の勉強ができ、また夏と冬の集中講座で、その時に最も注目されるような研究テーマや実践指導法など扱います。英語教育の質をさらに高めていける、実力ある英語教員が求められている現在、教師自身が英語を使い、教授法の研究を続けていくことが必要となります。本コースでは60%以上の授業が英語で行われ、ディスカッションを中心とした参加型授業を実施しています。英語教育理論を身につけ、客観的に授業を見つめ直し、自分で授業に必要な何かを見出す、さらに改善し、また見直す、そのような自律的発展ができる英語教員育成をめざします。教師でありながら教育研究者であること、それによって、コミュニケーションのための英語が指導でき、さらに時代の要請や学習者のニーズに応える柔軟な英語指導ができるようになります。生涯英語を使いこなせる学習者を育てていけるような、研究に基づく実践力を備えた英語教師を養成します。

必修科目

科目名	内容	曜日
Introduction to Second Language Acquisition	「第二言語習得研究とは何か」を学ぶ、本コースの基本となる講義です。第二言語習得の歴史や現状を学び、その中で先生方一人ひとりがどのような位置を担っているのかを考察することにより、時代の変化に対応できる英語教師となることを目標とします。	金VI限
Methods and Practices in Second Language Acquisition	第二言語習得研究に基づいた、さまざまな教授法とその実践方法、クラス運営方法などを学びます。日本語の使用量は、添削の仕方は…。具体的に学ぶことによって、状況に応じた方法を使い分け、学習者全員の意欲と満足を引き出す指導をめざします。	金VI限
Developing Listening Skills	ネイティブスピーカーによるOracy（話し言葉に関すること）の実践指導を行い、聞く指導・話す指導に関する最新の情報を学びます。Developing Listening Skills は、「ナチュラルスピードで聞く」ことを目標とした指導を行うために、基本を再確認します。また、内容理解につながる聞き方とは何かを考えます。Developing Speaking Skills は、話者同士のより良いコミュニケーションを目的とし、発音に慣れつつ、談話のスタイルや社会的要因なども考慮した、さまざまな話し方を学びます。	土IV限
Developing Speaking Skills		
Developing Reading Skills	ネイティブスピーカーによるLiteracy（書き言葉に関すること）の実践指導を行い、読む指導・書く指導に関する最新の情報を学びます。Developing Reading Skills は、読むこととは何か、精読と多読、背景知識、読み手の理解や語彙獲得、読解ストラテジーなどを学び、読解力と知識両方の向上をはかります。Developing Writing Skills は、パラグラフ・ライティングなどを学ぶほか、近年英語教育で注目されているプロセス・ライティングについても研究し、思考と言語の関わりについて考察します。	金VII限
Developing Writing Skills		
アクション・リサーチⅠ	研究活動の基本を学びます。前期はリサーチに関する基礎的な知識を身につけ、後期はアクション・リサーチⅡで扱うテーマについて先行研究の調査を行います。リサーチ・プロポーザルを書き上げるところまでを行い、2年次の研究につなげます。	土V限
アクション・リサーチⅡ	前期はアクション・リサーチⅠで設定したテーマについて、実際の授業を対象に調査を行います。後期は結果に基づいた報告論文をまとめ、提出します。	土VI限
Focus on Learners: Affective, Cognitive and Other Learner Factors	学習者の個性要因にどのように注目するかを研究します。どうしたら学習者の意欲を引き出せるか、認知のスタイル、学習態度などについて考察します。また、日本の英語教育では従来あまり注目されていなかった情動的側面の工夫についても考えます。	月VII限
Curriculum Development	言語教育センターの考え方から内容重視の考え方まで、学校教育におけるカリキュラムデザインを幅広く学び、それぞれの学校に合ったカリキュラムとは何かを探ります。	月VI限

選択科目

科目名	内容	曜日
Bilingual and Multicultural Education	多言語、多文化化の進む現代では、日常2つ以上の言語を使って暮らす人口が増えています。初等英語教育の視点も含めて、一人あるいは社会全体で複数言語文化とどう向き合うかについて学びます。	月VI限
評価法	教育評価に関わる基本的な考え方を学び、評価の妥当性とは何かを考察します。評価の理論的視点だけでなく、評価の実際や、データ処理、統計についても学びます。	月VII限
Cross-cultural Communication	異文化教育の視点から、言語と文化の関係を学びます。多様な文化的価値を認めることや、異文化との接点と言語教育の関連性、文化を超えて共存する人を教育することなどについて考察します。	月VI限
言語研究	言語の仕組みや成り立ちについて考察します。音声や音韻の研究、言語の構造研究、語法研究、ディスコース研究、談話分析、テキスト分析などについて学びます。	月VII限
ICT 英語教材開発法	ICT を活用した教材開発および教授法の研究を行います。ICT を用いた学習者と授業者、および学習者同士の相互コミュニケーションの方法や、通常の英語指導と関連させた ICT 活用法などを学びます。	土VII限

夏期集中講座・冬期集中講座・フォーラム

夏期集中講座

毎年8月に外国語教育や関連分野で国際的に活躍している研究者を海外から招き、5日間の集中講義を行います。その分野での最先端の研究に触れ、ワークショップ、ディスカッションなどを通して実践に役立てる方法を学んでいきます。隔年で、語彙指導研究者と語用論研究者または社会言語学者をお呼びしてきました。これまでに語彙指導では Paul Nation 氏、Stuart Webb 氏、また、語用論研究では Noël Houck 氏、Virginia LoCastro 氏、Donna Tatsuki 氏、社会言語学では Janet Holmes 氏などをお呼びしています。2017年度は語彙指導で知られる Marlise Horst 氏が担当する予定です。

冬期集中講座

毎年12月に4人の講師をお招きし、多様な授業実践のワークショップを4日間オムニバス形式で行い、さまざまな視点から授業研究を行います。「自己表現の指導」から「ティームティーチング」に至るまで、いろいろなワークショップを体験し、ディスカッションを行います。中学・高校・大学の教員で、その授業方法が注目を集めている先生方や、英語教員セミナーの指導者に講義をお願いしています。